

平成29年度 やまなし読書活動促進事業

図書館司書が選ぶ

こんな時、この一冊



本を贈ろう



幼いころ母から絵本を一冊贈られた。とても美しい本だった。世界が大きくなった。うれしかった。いくつかの絵からは今でも覚えている。

少年になって父から英語辞典を買ってもらった。身が引きしまった。世界が広がった。その知識は今でも私を支えている。

父母が懐かしい。本は心に残るものだ。頭に残るものだ。中身も姿も尊い。心を込めて本を贈ろう。それは、今でしょ。

仲間と旅に出たい時に

『あやしい探検隊 焚火酔虎伝』

椎名誠／著 山と溪谷社

椎名誠率いる「あやしい探検隊」が海へ山へと行く、冒険とお酒とおつまみの旅。仲間と焚き火を囲みでの語らいや、厳しくもドラマチックな自然が冒険心をくすぐります。そして、探検隊のユーモラスなスタンスに、こちらも「わはは」と笑みがこぼれます。仲間と共に旅に出たい、そんなときに読みたい一冊です。

(甲府市立図書館)

生きものを飼ってみたい時に

『その道のプロに聞く

ふつうじゃない生きものの飼い方』

松橋利光／著 大和書房

「昔飼っていたあの生きものをもう一度飼ってみたい!」、「子どもが捕まえてきた生きもの。どうやって飼ったらいいの?」など、飼育についてお悩みの方にお勧めします。

生きものを飼うことは簡単ではありません。

けれど、ある日突然訪れる生きものたちとの出会いを大切に……一歩踏み出す知恵と勇気を与えてくれる一冊です。

(中央市立図書館)

異時代へトリップしたい時に

『大搦源氏物語 まろ、ん?』

小泉吉弘／著 幻冬舎

54帖からなる源氏物語の主人公、光源氏を、栗のキャラクターで描いた本です。物語の全体をつかめるだけでなく、随所にちりばめられた和歌や衣の柄からも、平安の空気を感じることができます。

読み始めると止まらない、古の世界にどっぷり浸かれる1冊。

(都留市立図書館)

眠れない時に

『羊飼いの暮らし』

ジェイムズ・リーバックス 濱野大道／訳 早川書房

眠れない夜には、羊を数えてみる人もいるだろう。ふわふわの羊を思い浮かべ眠るのも良いが、羊飼いの生活に思いを馳せてみるのはいかがか。

本書では、約600年続く羊飼いの家系に生まれた著者の苦悩と喜びが、厳しく美しい自然と共に描かれている。まぶたを閉じれば、イギリス湖水地方の羊たちが、のびのびと駆けていく。

(山梨県立図書館)

子どもをぎゅっと 抱きしめたくなった時に

『こんとあき』

林明子／さく 福音館書店

こんはきつねのぬいぐるみ。あきが生まれた時からふたりはいつも一緒。ある日ほころびてしまったこんの腕を、おばあちゃんに治してもらおうとふたりは出かけますが、着くまでに何度も大変なことがおこります。こんとあきがお互いを信頼し思いやる様子が心を温かくしてくれ、よく頑張ったねとおもわず抱きしめたくくなります。

(甲斐市立図書館)

気持ちを整頓したい時に

『ブッタとシッタカブッタ』

小泉吉宏／著 メディアファクトリー

読み始めてジタバタする主人公のブタを鼻で笑っている方はご注意ください。読むにつれてそのブタが自分に見えてくる魔法(呪い?)にかかります。そうなればもうこの本のとりこ。

この本に出会い10年以上たちますが、いまだその魔法はとけず。時折ブタの自分に会いたくなって、ページをめくっては、心を掃除してもらっています。

(山梨市立図書館)

あたらしい家族（ペット）を 迎える時に

『マールのドア 大自然で暮らしたぼくと犬』

テッド・ケラソテ／著 古草秀子／訳 河出書房新社

ものごころがついた時から犬と暮らしていた私は、ペットとしてではなく家族として生活を共にしてきた。私のことを自分の子どものようにいつも見守ってくれていた犬、姉弟のように一緒に出かけたり、転げまわって遊んだ犬。この本を読んでいると、最高の相棒だった犬たちとの楽しかった日々を思い出す。
(大月市立図書館)

雨の日、静かに過ごしたい時に

『家守綺譚』

梨木香歩／著 新潮社

舞台は明治の頃の疎水近くの古い家。その庭には植物、動物、この世のものではない者までが集う。雨が降っているわけではないのに、本の中には不思議と「水」の気配が近くに漂っている。植物や動物との交歓に、心の中もしっとりとした潤いに満たされる。

通勤途中や昼休みの食堂ではなく、一人静かに本とともに過ごしたい時に。

(山梨県立図書館)

子どもの「なぜ？」に答えたい時に

『イラスト案内 社会のしくみ図鑑』

奥澤朋美、おおつかのりこ、菅原由美子／文
のだよしこ／絵 玉川大学

子どもは、「何歳になったら大人なの？」と母に尋ね、困らせてしまったことがあります。その時、この本があれば万事解決していたことでしょう。

暮らしの中にある様々な社会のしくみを、イラストを交えて紹介しています。私たちの生活は、様々なしくみに支えられているのだと頷ける一冊。

(身延町立図書館)

ふと自分の人生を振り返った時に

『この年齢だった！』

酒井順子／著 集英社

誰でも「あの時が転機」という年齢があります。この本に登場する27名の人生は、有名人であるがゆえに転機もまた劇的です。有名人たちの人生を見ていると、どこか共感できる人や、スケールは違っても自分に似ている人に出会うことができます。お気に入りの人を見つけたら、ぜひ、その人の自伝や伝記も読んでみてください。

(南アルプス市立図書館)

自信をなくした時に

『だんろの前で』

鈴木まもる／さく・え 教育画劇

ブツッと心の糸が折れたように「何だか疲れたなあ」と思ってしまったときに読みたい絵本『だんろのまえで』。

元気を失って心が迷子になった男の子の心を、暖かなだんろの火とそこに集う動物たちがさりげなく包みます。

(昭和町立図書館)

リラックスしたい時に

『世界のシェー!!』

平沼 正弘・塩崎 昌江／著、100%ORANGE／装画・挿画
イースト・プレス

この本では、著者が世界中を旅しながら、世界中の人々にあの「シェー」をしてもらっているんです！

どの国の方もいい笑顔でシェー。

言葉は通じなくても笑顔は世界共通。

素敵な笑顔を引き出せる「シェー」も世界共通!?

さあ、みなさんも、肩の力を抜いて、頭をからっぽにして、せーの！「シェー！」

(富士吉田市立図書館)



楽しいことないかなーと思った時に

『古典落語〔正〕』

興津要／編 講談社

出歩くのも面倒くさい、お財布の中味も淋しい、でも楽しい時間が欲しいと思ったら、テンポよく話が進んで、笑える噺がたくさん詰まっているこの本、結構いけるのである。

先人の磨き抜かれた話芸を覗かれたし。

(山梨県立図書館)

ふと、日常から 飛び出したくなった時に

『アラスカ風のような物語』

星野道夫／著 小学館

ページをめくるとアラスカの雄大な自然が広がる。耳をすますと、あの動物の息づかいや森の息吹が聞こえてきそう。ゆったりと時は流れる……。

あわただしい日常から離れて、ひと休みしたくなったとき、本を開いてみてください。アラスカのとてつもなく大きな自然と、飾らない語り心が癒し、気持ちを軽くしてくれます。

(上野原市立図書館)

本当に大切なものは何か 知りたくなった時に

『わたしが正義について語るなら』

やなせたかし／著 ポプラ社

アンパンマンがこれほど愛される理由は何なのでしょう…。

決して変わる事のない正義があると、アンパンマンの生みの親やなせたかし氏は言う。

変わらない正義とは、悪を裁くことではない。弱者の立場になって、自分が傷つく事を恐れない勇気と愛だと教えてくれる一冊です。

(忍野村立おしの図書館)

いつもとはちょっと違う旅を したくなった時に

『ふらり珍地名の旅』

今尾恵介／著 筑摩書房

全国各地には、珍しい地名がたくさんあります。その珍地名の「なるほど!」というものから「本当に?」と思うような由来と一緒に土地柄がユーモラスに紹介されていて、珍地名を訪れ探りたくなる一冊です。私たちにも馴染みのある中央自動車道「談合坂 SA」のある上野原市「談合坂」の地名の秘密にも迫っています。

(甲州市立図書館)

最近、ひたむきさが足りないな と感じた時に

『文房具図鑑 その文具のいい所から悪い所まで 最強解説』

山本健太郎／著 いろは出版

小学6年生の男の子が約1年かけて書いた、この文房具図鑑。ページをめくると、そこには文房具への愛情と情熱がぎっしり。その愛情と情熱が、家族に、友達に、文具屋さんに、文具メーカーに、出版社に伝わって、1冊の本になった。何かに夢中になることの素晴らしさ、そして人を動かすほどのひたむきさ。見習いたいものだ。

(山梨県立図書館)

誰かに贈り物をしたくなった時に

『Presents』

角田光代／著 双葉社

女性が一生のうちに貰う贈り物がテーマになっている短編集。一つ一つの贈り物に素敵な物語があり、様々な女性の細やかな感情が描かれている。

贈り物は贈られた時点で、ただの品物ではなくなり、贈ってくれた人との関係や想いがそこに生まれ、鮮やかな記憶となって残る。

贈り物選びは難しいが、誰かに何かを贈りたくなる一冊。

(北杜市立図書館)